とうきょうすくわくプログラム活動報告書　１歳児クラス

テーマ『　寒さで凍る水　』

≪テーマ設定理由≫

寒くなり普段遊んでいるタイヤに霜がおり白くなっていた。それを見て不思議に思う子どもたち。慣れ親しんでいる水が気温によって姿を変えていること。寒くなることで変わっていく水の変化を子どもたちが発見していく姿をみたいと思いテーマの設定をした。

≪活動日・観察内容≫

1月8日（木）	園庭にあるタイヤが白くなっていることを発見。指で触ってみる。その姿を観察。
1月23日（金）	水道から垂れている水が凍っていることを発見。その姿を観察。
1月26日（月）	散歩先の芝生に霜柱ができており、踏むと音がする。散歩先からの帰り道、地面が凍っていることを発見。その姿を観察。

≪環境設定・準備したもの≫

準備したものはないが、寒さの翌朝には園庭に霜がおりていないか、園庭遊びの前に事前に確認した。戸外散歩の際にも注意深く観察した。

≪活動内容・子どもの様子≫

＜活動1＞年が明け寒さも本格的になってきたある日。寒さにも負けずに遊んでいるといつも遊んでいるタイヤが真っ白になっていることに気付いた子どもたち。（写真①）その後の子どもたちの様子を観察することにした。「なぜ真っ白なんだろう？」と疑問に感じていた様子。不思議に思いながら触ってみると、指で触ったところだけ熱で溶け、元のタイヤの色に。それと同時に「冷たい！」という感覚も。触ることで色が変わり、線が描けるということを楽しんでいた。（写真②）

＜活動2＞園庭遊びの最中。水道から水を出そうと蛇口をひねってみるが、なかなか水がでてこない。水が出てこないと蛇口を覗き込んだところ、水が垂れていることに気付く。（写真③）その時の子どもの姿を観察することにした。触ってみると水は垂れているはずなのに、手が濡れるわけではない。「なぜだろう」何度も触っては自分の手を確認していた。何度も触ることにより、凍っている水が溶け、手が濡れてくることで水がでてきたと感じているようだった。（写真④）水が凍っていることには気付いていなかった。

＜活動3＞寒かったがとても天気が良く、戸外散歩へでかけた。散歩先の芝生がところどころ霜がおりており、踏むと「ざっ、ざっ」と音がする。「ここは音がなるのか」と芝を踏み、耳を澄まして音が聞こえるかどうかを確かめていた。霜を踏んだ時に足に伝わる感触も違い、両足で踏んだり、ジャンプをしてみたりと硬さを楽しんでいた。

散歩先から園までの帰り道。地面が凍っていることに気づいた子どもたち。その時の子どもの姿を観察することにした。凍っている地面を触り、冷たいと感じると同時にその氷を手にしてみようとする姿が見られた。（写真⑤、⑥、⑦、⑧）

また、芝を踏んで音がなったように氷を踏んでも音がなるのだろうか。と試している姿もみられた。踏んだことで割れた氷を手にすることができ、氷の冷たさを手にして改めて感じていた。

写真①

写真②

写真③

写真④

写真⑤

写真⑥

写真⑦

写真⑧

≪振り返り・気付き≫

姿を変えていく水についての子どもたちの反応や姿を観察したが、水が凍っている。霜がおりている。と気付いてはいても水が姿を変えているというところの気付きはまだ難しいと感じた。凍っている水を触ると冷たい。霜が下りている芝を歩くと音がなる。などこのような夏に触る水の心地よさとは違い、冬に触る凍った水の冷たさや霜柱を踏むという冬ならではの経験をすることができた。その中で、冷たいけれど触ってみようという子どもたちの「これは何？」「触ってみたい」という探求心を感じることができた。